

第九回天神祭献詠短歌大賞 入賞・入選短歌

一般部門

- 大賞 ● ざわめきも汗も吐息も装いも天神さまのまなざしの中（大内星乃）
- 香川ヒサ賞 ● 忘れない「平成」最後の天神さん 夜空の眩さあなたの匂い（伊藤賢治）
- 加藤治郎賞 ● 花火より一秒早く「好き」を言い真夏の音がかき消していく（野呂裕樹）
- 高田ほのか賞 ● 町内の子供が急に増えている祭囃子になつかしい顔（周防律子）
- 天神橋筋商店街賞 ● 天四のアーケード成りて二十年平成最後の総会も晴れ（堀 裕彦）
- 大阪天満宮賞 ● 笛の音とともに漕ぎ出づ斎船民安けくと銚流れゆく（好井晶子）

一般部門入選歌

- 平成の最後の夏は音たてて消えてゆき たり花火と共に（大江美典）
- ぼんっという光が走るそれでも手は温かくて良い時代だな（初霜若葉）
- 梅雨明けの兆し見えればたちまちに天満の渡御のかほり漂ふ（田中光夫）
- 兵児帯のみぎにひだりに振れ行くを追えども追えぬ川霧の夕（西藤 智）
- 背丈伸び短め浴衣さつと着て祭娘は人ごみに消ゆ（春田 優）
- 新しき衣装着けたる石像の神馬キリリと一對並ぶ（蒔苗慶治）
- ジャンブルジムのスピーカーカーより聞こえる町会長の祭の音頭（清水良郎）
- 君だけをずっと見ていた花火などただの口実行かないで、夏（石川裕加）
- 木仏ねむる山岳に旅人つどい神楽の唄が夜空舞う（越野 誠）
- 盲目の君の手握り目を閉じて音だけ聞いた天神花火（山田直輝）
- 友達とはぐれたときの人波ようどうしてそんなに静かなんだい（服部拓矢）
- ギャルみこしわたあめの花火この熱気動画で届ける母の病室（木内美由紀）
- 君に似た小鳥が（それは鳳凰だ）祭り神輿の頂上にいる（久保哲也）
- 風鈴のおとさらさらとゆれながらきみにふれたいひととなつのゆめ（東こころ）
- 襟元の歪みを直す指先にバラ石鹸のほのかに香る（松本 進）
- 故郷の鎮守の森は変らじと真っ赤な旗にさるぼほゆれて（柏木喜志乃）
- 硝煙のにおいと君の汗がにじむ浴衣を回すコインランドリー（福本周子）
- 花火見る君の耳元で囁きぬ今宵みんなとわざとはぐれよ（立瀬有理）
- お土産は「スイミーだよ」と差し出した黒い金魚はビニールの中（前 由月）
- 黄昏の商店街に浴衣着て歩く少女は風船離さず（菊地秀人）
- お祭りに賑はふ天神橋筋を海ほほづきを鳴らして帰る（久田泰子）
- 「かき氷いらないよ！」って小さな手に引かれた先は緊急車両（小山文絵）
- 一瞬で花火の音をかき消した浴衣越しに鳴る君の鼓動が（水野 滴）
- パンパンと大阪締めは初めてと手拍子合わずに母と笑いて（南 順子）

子ども部門

- 大賞 ● 闇の中花火が照らす我が家族顔も心も同じ色だな（横溝麻志穂）
- 香川ヒサ賞 ● 汗流し練習してきた篠笛で輝かせたい踊り子たちを（岡坂陽菜）
- 加藤治郎賞 ● 君がいない初めての夏寂しくて花火見ながら何を思うだろう（杉本美優）
- 高田ほのか賞 ● 向こうからうるさいぐらい音がするそれでも思うやまないように（野中美奈）
- 天神橋筋商店街賞 ● 休みの日商店街がにぎわう日この日はみんな気持ちを変え（山口大雅）
- 大阪天満宮賞 ● かさおどりたいこにふえにたけのおといろんなおとがひびきこえる（上原怜笑）

子ども部門入選歌

- 迷うほど色とりどりのかき水舌みてわかるどんな味かな（松宮 舞）
- おむかえ人形大きな目をして私を見てる祭りのたいこでおどりだしそう（千原瑠夏）
- かき回しおどっていると夜空には打ち上げ花火きれいにわれる（澤アカラチャイ空）
- なつまつり金魚すくいはいはとくいだが君の心はすくえるのかな（桃川果歩）
- 五階から微熱の顔で外見れば網戸の向こうに火の花が咲く（室谷禎乃）
- 夜の空炎の花が空に散る数秒だけの青春すず（ワイバシムラン）
- 山車をひく二人の恋はカラまわり動きだすとき綱に手はなし（山下康太）
- 夏風におくれ毛そよぐ君をみてばくの心はあの花火のよう（鉢呂一颯）
- せみたちの声に負けじとほり上げる祭みこしが 街をかけめぐる（山本拓海）
- ゆかた着てわたがし片手につなぐ手の幼さについ笑顔こぼれる（佃 小都）
- 夏祭り夜になるまで待たなくてまだ？まだ？という子ども達かな（諸見心音）
- 次のやたい次のやたいがよく見えてまつりのさんどうおわってしまう（横道 玄）
- りんごあめかた手にもって食べながら夜空の花火と大ききくらべ（成田華蓮）
- 散るものと知っていながら打ち上がる花火は想いを伝えるように（坂本航志）
- 髪の毛のセットに時間かかるのに楽しんでみすぎて帰りはぼさぼさ（川崎百々佳）
- いつもとは少しちがったふんいきはこのあとにある花火のためかな（開高早恵）
- わたがしを口いっぱい詰めて溶けてく砂糖雲のない空（村上凜夏）
- きれいだね花火を見ながらつぶやいた君に伝えるはずだったのに（鳥居愛未）
- 夏まつり金魚すくいして持ち帰る二日も経たずいなくなつたよ（正岡杏都）
- ぼんやりと屋台の並び浮かび上がるこのままここに溶け込みたい（藤井桃花）
- 今日の日最後の天神なんだからいつもと違う自分になろう（松井千宙）
- うさぎさんあなたの住んでる月からもきらきら花火は見えますか（萩原なな子）
- 金魚さんスイスイ泳ぐ水の中君に決めた家族になろう（山内さくら）
- 普賢祭くじを引いてもハズレだけ俺の財布はハズレになった（中山暖也）